

課題別総合実習終了後の学内発表会（在宅看護学）に先輩を迎えて

○看護学科では、3 年時後期の各看護学領域での実習をふまえ、4 年時の前期に自分の将来像から看護領域を選択し、主体的な実習に臨む課題別総合実習を行っています。

○在宅看護学では、8 名の学生が病院の地域連携室での実習を選択し、3 週間の実習を終えました。実習最終日には病院の看護部から多くの方の出席をいただき、学びのプレゼンテーションを行いました。

○在宅看護学領域では、今年初めての試みとして、同じ施設で実習し、今年 3 月に卒業した 3 名の先輩を迎え、学びの発表会を開きました。学生にとっては 1 年後の自分を意識しながら、先輩にとっては 1 年前の自分をリフレクションしながら、互いに今後の看護への思いを深める機会になりました。

○この会で発表した学生の実習テーマは以下の通りです。

学生A「病気や障害を持ちながらも在宅で暮らし続ける力を支える看護」

学生B「非日常である医療と日常である生活をつなぐ看護」

学生C「障害を持ちながら希望に向かって地域で暮らし続ける力を支える看護」

学生D「障害により自己概念を変化せざるを得ない療養者の生活の再構築を支える看護」

どの学生も、看護観の深まりや広がり、看護師としての自分への期待が感じられました。

○発表を聞いてくださった先輩から、課題別総合実習の学びが、卒業後に看護実践の核になり、さらなる学びに繋がるという場面を具体的に聞くことができ、当学科の課題別総合実習の持つ意味を再確認できました。

卒業して 4 か月余りの卒業生は、不安や緊張を乗り越えながら成長していく経過を話してくださり、自信とプライドと安定感に満ちており、卒業後の臨床実践こそが個々の看護者の成長の糧になっていることが窺えました。

最期に参加した、4 年生、卒業生ともに、将来は訪問看護師として、または病院の地域連携室の退院支援看護師として活躍する夢があることを語り合いました。



(4 号館 第 2 演習室にて)